山梨県農政部試験研究機関（水産技術センター）課題評価委員会

とりまとめ：高橋一孝

1　評価委員

委員長　岩田智也　学識経験者
山梨大学工学部循環システム工学科　准教授

委　員　古菅一芳　生産者（漁業）
山梨県漁業協同組合連合会　代表理事会長

委　員　生原洋征　生産者（養殖）
山梨県養殖漁業協同組合　副組合長理事

2　評価委員会

(1)　第１回　平成２２年８月２６日（木）　水産技術センター本所

事前評価課題「ブドウポリフェノール投与による養殖魚の品質向上試験」　研究員　名倉　盾

課題設定の必要性	5 点	先進県での成功例のように、山梨独自のブランド魚開発に対する必要性は高い。また、水産業以外の県内産業からのニーズも高いと思われる。
課題の新規性・独創性	5 点	ブドウ由来のポリフェノールの有効性に着眼した点は良く、新規性・独創性は高い。
目的・内容の整合性、妥当性	5 点	販売価格があがらず、エサ価格も上昇している中、品質向上のための緊急の対策が必要である。この点で、目的・内容ともに妥当である。
研究手法の的確性、技術的可能性	4.9 点	ポリフェノールのみにこだわらず、広くブドウの効果について注目した方が良いだろう。また、耐病性のみならず、成長・生残・発がん性等の評価についても検討して頂きたい。
成果の期待度	5 点	是非、県産ブランド品の開発につなげて頂きたい。期待度は非常に高い。
総合評価	4.98 点	ブドウに着目した点が非常に高く評価できる。速効性のある県産魚開発研究として是非頑張って頂きたい。

《センターとしての対応》

○即効性のある県産品ブランドの開発に取り組む。
○ポリフェノールだけではなく、ブドウの効果についても注目していきたい。
○成長・生残等についても検討する。

(2) 第２回　平成２３年２月３日（木）　水産技術センター本所

事後評価課題　「センター産アユの継代数の違いによる釣られやすさの比較」　研究員　坪井　潤一

研究目標の達成度	5 点	初期の研究目標は達成している。

成果の有用性（普及性、波及性）	4.5 点　成果の有用性は高い。種苗放流の際には、水温や礫など他の河川環境要因も考慮して頂きたい。
研究の発展性	5 点　異なった河川や条件での研究を進めて頂きたい。また、Ｆ１との比較も行って頂きたい。
研究課題選定の妥当性	4.8 点　アユは日本を代表する魚種であり、種苗生産は重要な事業である。選定課題は重要である。
総合評価	4.8 点　継代を重ねたアユの定着率が低いことが示された意義は大きい。Ｆ１の飼育にも鋭意とりくんで頂きたい。成長・歩止まりの評価には種苗特性だけでなく、河川環境の違いも含めた広い視野で考えて頂きたい。

《センターとしての対応》

○　成長・歩留まりの評価については、種苗特性だけでなく、河川環境の違いを含めた広い視野で考えていきたい。また、継代数の違いにより定着率に差が出たことから、今後、放流種苗については検討していく。